

協力準備調査(BOPビジネス連携促進)

ガーナ・離乳期栄養強化食品事業

公益財団法人味の素ファンデーション(味の素株式会社から事業譲渡)

開発課題

- ・発酵コーンから作る伝統的なおかゆ“KOKO”は、離乳食として乳幼児に与えられていることが多く、タンパク質、微量栄養素が不足しており、乳幼児が栄養不足になりがちである。特に生後6ヶ月から24ヶ月の離乳期の栄養不足による発育不良(低身長、低体重)は、深刻な社会的問題となっている。

提案事業

- ・提案企業のもつ食とアミノ酸の知見と技術を活かし、乳幼児の栄養改善に貢献できる食品を開発、現地生産体制の構築と、BOP層の栄養意識改善と製品を届ける仕組み作りを行う。



「協力準備調査(BOPビジネス連携促進)」を通じた ビジネスモデル構築、事業計画立案

多様なパートナーシップの構築

- ・保健省、ガーナ大学や、JICA、USAID等のドナー、CAREやPlan等の国際NGO、WFP、GAIN等の国際機関等、多様なパートナーの協力・支援を得ながら事業立ち上げを推進。

JICA事業との連携

- ・研修事業を通じて、保健省の栄養改善に関わる担当者を対象に、味の素川崎工場視察や講義を実施。



成果

- ・乳幼児を持つ母親の栄養意識の高まり、低体重、低身長などの子どもの成長課題の改善、BOP層の生活向上。2017年までに、2万人の乳幼児に提供。
- ・ガーナ産大豆を主原料とする製品の現地生産を通じ、農業促進、現地企業の能力向上、雇用の創出。